

産業振興対策分科会会議録

1 日時 昭和45年2月18日午前10時

1 場所 第2委員会室

1 出席委員 主査 吉田勝治君
副主査 阿部公一君
与口登美夫君 小谷正太郎君
服部喜三郎君 (以上5人)

1 欠席委員 川又信応君 中村徳雄君
坂井友治君 (以上3人)

1 特別出席 委員長 柴野寅平君

1 事務局職員 主事 小越哲雄君

1 事件 (1) 敦賀・美浜視察報告について
(2) その他

1 署名委員 与口登美夫君 服部喜三郎君

1 開議 午前10時20分

1 経過概要

(吉田主査から別添資料に基づいて視察結果の報告があった後、次のような質疑応答があった)

与口委員 漁業捕獲は、どういう趣旨でやられたのか。

柴野委員長 漁業権の消滅に対するものである。

与口委員 原発ができてから魚がとれれば、もうけもの、というわけか。

阿部委員 そういふことである。

与口委員 出雲崎あたりは、どれくらいになりそうか。

柴野委員長 それをつかむのは、むずかしい。向こうでは、県の水産課が調査した。

阿部委員 地元の業界、特に土建業界に相当の影響がありそうだ。

柴野委員長 柏崎の場合、2～3千人の労務者が必要のようである。そういうことで既存産業を圧迫しないかどうか。それで、遊休労働力がどれくらいあるかということ、いま商工課に調査させている。出かせぎも相当あるが、柏崎からの出かせぎは杜氏という特殊な職種で、出かせぎ先から当てにされているので、原発のほうの仕事にまわるということはあまり考えられない。美浜では災害復旧工事も遅れがちで困っているということだ。

与口委員 向こうは工場地帯か。

阿部委員 半島の突端の辺地で、工場地帯ではない。

小谷委員 出雲崎の漁協は東電と交渉を始めているのか。

柴野委員長 ほんとうの気持はわからないが、これまで反対ということでやってきている。反対の理由としては、漁場がなくなる。資源の減少、海況の変化、放射能汚染、価格の下落等をあげている。

小谷委員 漁業問題については県から積極的にあっせんの労をとってもらわなければ困るということか。

柴野委員長 そうということだと思う。

小谷委員 一番の問題は雇用の関係だ。地元業界が圧迫されては困る。

与口委員 それと道路だ。

柴野委員長 敦賀では原子炉から250メートルの所に公道がある。このことについても調べていかなければならない。

1 散会 午前11時20分

産業振興対策分科会

主査 吉田勝治

署名委員 与口登美夫

署名委員 阿部喜三郎

敦賀

美浜 原発視察報告書

今般、原子力発電所のことについて敦賀市および美浜町を視察してきましたので、その概要を別記のとおり報告します。

昭和45年2月

柏崎市議会原子力発電所特別委員会

委員長 柴野寅平

環境整備対策分科会主査 関市太郎

同 副主査 田村光伸

監視体制

整備対策分科会副主査 黒崎秀夫

産業振興対策分科会主査 吉田勝治

同 副主査 阿部公一

柏崎市議会議長 武田英三殿

記

1 視察先および行程

2月2日 敦賀市役所 敦賀発電所

2月3日 敦賀市漁協 美浜町役場

2月4日 (美浜) 丹生漁協 美浜発電所

2 視察概要

敦賀市役所

説明者 田辺副議長

吉本議会事務局長

(前商工観光課長 原発担当)

環境整備関係

(問) 住民からの要望は、どのようなものがあつたか。

(答) 大きく分けると、道路、雇用、代替地等について要望があつた。具体的に、そのいくつかをあげると、次のとおり。

- 大謀網作業用地の代替地造成、それに必要な通路、栈橋の設置
- 農道の改修、市道の新設
- 農作業小屋の移転費
- 農業用水路のつけかえ
- 労働者あるいは従業員の優先雇用 等

(問) レイアウトができる前に会社側とどのように話し合つたか。レイアウトができてからはどうか。

(答) 住民の要望を満たすべく十分に話し合い、市がやるものは市がやり、会社にやってもらうものは市が会社と契約して、やってもらつた。

(問) 道路の整備はどのように行なわれ、その経費負担はどのようになされたか。

(答) いわゆる原発道路が県道としてつくられた。延長は約8,800メートル。幅員は、会社の必要からいえば1車線でよいということであつたが、産業観光道路としての活用を考えて2車線を要望し、2車線の6.5メートルで作られた。

工事費は4億7,500万円で、会社が3億,500万円、県が1億2,850万円、市が2,150万円を負担した。なお、最近、さらにその先の立石海岸に動燃事業団の新型転換炉の設置が本ざまりとなり、そこに至る市道の改良舗装が約9,000万円で行なわれることになった。この工事費は事業団が負担し、工事は市が行なう。

(問) 道路は発電所に接触しているが、つけかえ等を考えなかつたか。

原子炉までの距離は300メートル内外であり、冷却水の取・排水管は道路

の下を通っている。

(答) つけかえ等は全然考えなかった。そういう話はなかった。建設中は守衛所を分遺して通行規制を行ない、学童について誘導した。

(問) 予想しなかったような問題が起きた場合の話し合いを協定にうたつてあるか。

(答) うたつてない。担当者が変われば疎遠になりがちなので、1項、うたつておいたほうがいいかも知れない。

(問) 用地買収は円滑に行なわれたか。

(答) 用地買収は県開発公社を通じて行なわれたが、特に妨害工作などはなく、円滑だった。

なお、建設の正式決定前に、市が仲に入って、開発公社と地元部落との間に用地売買の仮契約が結んであった。買収価格等は次のとおり。

地目	面積	坪当り単価	金額
田	28.026坪	960円	26,904,616円
畑	6.676	500	3,337,915
池	19.119	50	955,964
山林源野	364.236	200	72,847,222
計	418.057		104,054,717

(問) 周辺監視区域は買収しないで地役権を設定したそうだが。

(答) 用地買収と同時に、隣接区域の山林源野等約1万2,000坪を非居住区域として地役権設定の契約を行なった。地役権設定区域内においては、住宅その他の建物等を建てることはできないが、耕作は認められている。

地役権取得の報酬等は次のとおり。(関係地主15人)

1坪につき	田(4.134坪)	320円
	畑(3.6坪)	167円
	山林源野(8.057坪)	67円
(期間20年)		

(問) 工事中に事故はなかったか。(特に住民生活に影響を及ぼすような)

(答) 特にない。

(問) 地元民の利便のために特別な施策を講じたか。

(答) 特別の施策というようなものはないが、たとえば、そのときそのときの要望等を会社に取り次ぐなどの配慮をしている。

(問) 生活環境の上でのマイナス面はないか。

(答) 特にない。しいて言えば、道路がよくなり、金が入ったために、町に出て金を使うことが多くなったというようなことがあげられるかもしれないが、これにしても、マイナス面と言えるかどうか。半面、道路がよくなったことによるプラス面は非常に大きい。観光客がふえた。民宿もふえた。病人の収容も楽になった。

(問) 原発就業者の医療対策

(答) 会社側との話し合いにより、市立総合病院を4,500万円かけて増築した。財源は起債3,300万円、一般財源1,200万円。ただし一般財源分の1,200万円については会社が負担した。(会社はさらに出入りの業者に分担させた)

そのほか現地には医務室が設けられ、契約により市立病院から医師を派遣していた。

なお、美浜のものも敦賀に来るが、関電からは増築の分担金はとらなかった。

(問) 社宅、独身寮の土地測定の経過について

(答) 市としては、地元の要望もあり、現地に設けてほしいと申し入れ、独身寮は現地に設けられたが、社宅は市中心部に近い所につくられた。妻子持ちの宿舎となると、学校等の関係もあって、不便な所にはつくりたがらない。買収面積は、独身寮用地が8,635坪、社宅用地が9,017坪である。

監視体制関係

(問) 住民の中に不安や反対の声はなかったか。不安や反対の声に対しては、どのように対処したか。

(答) はじめのうちは不安の声もあった。候補地にきまると同時に、市も会社も部落に入って、徹底してPRをやった。娯楽映画とだき合わせのPR会を開いたり、模型の展示会等も開いた。漸次、不安は消えていった。

その後、一部の人たちが入り込んで、ビラをまいたりしたが、住民は冷静だった。いまは、一般市民の間に不安、反対の声はないと言ってよい。

(問) 事前の諸調査は、どのように行なわれたか。

(答) 昭和39年ごろから、県の衛生研究所による環境放射能調査等が行なわれた。

(問) 監視体制はどういう形になっているか。

(答) 会社自体が行なうほか、県が第三者的立場で行なう。県の体制としては、「福井県環境放射能測定技術会議」と「福井県原子力環境安全管理協議会」の2つの機構になっている。「技術会議」では、衛研、原電、関電の技術陣が測定したそれぞれの結果を持ち寄って研究する。「管理協議会」では、市町村長や議会代表等が構成員となって、技術会議の測定研究の結果について検討確認する。

(問) 原発問題を担当する市役所の機構

(答) 商工観光課が担当している。

産業振興関係

(問) 地元既存産業への影響（賃金、雇用、受注等）

(答) 目下調査中。3月中には一応まとまると思う。まとまったら送る。

(問) 海運産業誘致の見通し

(答) いまのところ、関連産業といったものは出ていないが、それとは別に、地元で電力を使えるよう変電施設等をつくってほしいということを要望している。

(問) 温排水の活用策

(答) 今後、現地にできる水産試験場等で研究されると思う。

(問) 漁業への影響と漁業補償（排出、配分）

(答) 40年6月ごろから漁業補償の交渉が進められ、41年2月に妥結、協定蓄積の調印が行なわれた。

漁業権消滅区域 浦底湾のうち約25万平方メートル

補償金の額 5,100万円

補償金の算出については、県水産課の調査がもとになっている。配分は組合内部でやった。

(問) 動燃事業団の新型転換炉設置についての漁業補償はどのような形でなされたか。

(いわゆる迷惑料という各目にして、漁業権は消滅させなかったと聞いているが)

(問) 確かに迷惑料という名目だそうである。1,300万円出している。

うち1,000万円は地元の立石部落に、300万円は関係の6部落で分けた。これは会社と直接交渉らしい。確たる算出基礎はないようだ。

(問) 地域の開発発展のビジョン

(答) 美浜の発電所につなげる道路、さらに三方・美浜に通ずる海岸道路等により、敦賀半島全体の観光開発を企図している。

敦賀発電所

説明案内者 谷田次長

PR館において、次のような点について、概要の説明があった。

○敦賀発電所の概要

出力 32万2,000キロワット 工費 358億円

型式 ふつとう水型 等

○在来路、新型転換炉、高速増殖炉

○放射性廃棄物とその処理

○放射能と半減期

○自然の放射線と人口の放射線

○放射能、放射線、放射性物質

○放射線のしやへい

○国際放射線防護委員会の基準（一般人 年500ミリレム）

○排水温度（夏は2度ほど、冬は5度ほど高くなる）等

説明を聞いたあとで中央制御室等を見学した。

敦賀市漁協

説明者 組合長

田中参事（総務課長）

(問) 敦賀市漁協の概況

(答) 39年に7つの組合が合併、組合員は253人、年間水あげは約2億円（うち漁業補償海域は約5～6百万円）、信用部の貯金高は約3億5,000万円、貯金高が多いのは原電補償のおかげ。

(問) 漁業補償について

(答) 県水産課が各戸にわたって漁獲高を調査した。対象海域の浦底湾内はナマコとか、刺網のエサになる小エビなどで年間5～6百万程度。その10年分ということで、交渉の結果、5,100万円でまとまった。

(問) 補償金の配分について

(答) 地元75パーセント、その他25パーセントという大ワクによって旧組合単位に分け、個々への配分は旧組合内部においてそれぞれのやり方できめた。

(問) 原発に対する漁民の気持

(答) 辺地の半農半漁の地帯で、湾内は漁場価値も低く、後継者の問題にもなやんでいたところから、用地や漁業の補償金が手に入り、地域開発にも役立つ原発設置を拒んではいない。安全性の問題については、いろいろ説明会等が持たれた。

(問) 予想できない将来の影響に対する補償

(答) 解釈がむずかしい。漁業権の消滅に対しては補償してもらったわけである。質問の点は特に契約にうたっていないが、「温排水を利用して真珠とかハマチの養殖をやろうというときには協力をおしまない」ということは、うたつてある。

(問) 補償の「10年分」というのは動かせないのか。

(答) いろいろな場合の補償について、それぞれの方式があり、原発の場合は10年ということになっているらしい。

(問) 個々の配分にあたって問題がおきなかったか。

(答) 資格審査の段階で若干問題があった。

(問) 立石部落の新型転換炉の場合は漁業権消滅補償でなく、迷惑料にしたということだが、その経緯。

(答) 立石地区が直接交渉して、そのようにした。旧立石漁協は「漁業権の行使その他については従来のままの権限を有する」という条件で合併した。地元がきめてしまったものについて、組合は契約を締結しただけである。放水口に水の拡散をはかるためのテトラポットを置いたりするので、その迷惑料として1,300万円ということである。

美浜町役場

説明者 柴崎収入役

藤田広報課長

環境整備関係

(問) 住民からの要望は、どのようなものがあつたか。

(答) 陸の孤島という呼び名がピッタリの辺地なので、まず道路の開発整備、それから飲料水(簡易水道)、漁港施設(岸壁、物揚場)、文教施設(学校)、代替農地(樹園地)等の要望があつた。それらに対しては年次的にやってきて、44年度でほぼ達成した。

中でも、地元の丹生小中学校を8,000万円かけて新築した。

(問) レイアウトができる前に会社側とどのように話し合ったか。また、レイアウトができてからはどうか。

(答) 地元の要望をどういうふうに結びつけるかという態度でやってきた。

(問) 道路の整備はどのように行なわれ、その経費負担はどのようになされたか。

(答) いわゆる原発道路が2億6,000万円かけてつくられた。

県道であるが、会社が1億6,000万円負担し、市も780万円ほど負担した。そのほか、町として、白木部落に通ずる町道の拡幅等をやった。

(問) 用地買収は円滑に行なわれたか

(答) 地元の丹生部落は戸数68,半農半漁で、共有地が多い。買収交渉には町長も何回か足を運んだが、円滑だったと思っている。買収の坪単価は、田6000円、畑5000円、原野2500円。

(問) 工事中に事故はなかったか。(特に住民生活に影響を及ぼすような)

(答) 子供がとび出して骨材運搬車にはねられた、そのほか労務者に数人の事故があったが、住民生活に影響を及ぼすようなものはなかった。

(問) 地元民の利便のために特別な施策を講じたか。

(答) 飯場的のものができるので、事故が起きることを心配して、派出所をつくってもらった。会社も金を出した。

(問) 生活環境の上でのマイナス面はないか。

(答) 特に考えられないが、町当局としては、補償金等が消費生活に費消されることを心配して、貯蓄モデル地区に指定し、貯蓄を奨励した。共有地の分については個人に分けないで、関電の社債を買ったりしているようだ。

(問) 原発就業者の医療対策

(答) 地区にへき地診療所があるが、医師も通いで、十分なものではない。大体、敦賀の病院に運び込むことになっている。道路がよくなったので、30分で行ける。

(問) 社宅、独身寮の土地測定の経過

(答) 現在、関電の宿舎は3ヶ月にある。2ヶ所は当町内にあり、1ヶ所は敦賀の市域内にある。敦賀市域内にあるのは臨時的なものである。

会社は当初、宿舎は敦賀市内に設置することを考えていたが、強く申し入れて、当町内に設けられることになった。1ヶ所は現地の近くにある。

運転段階に入ったら、150人ぐらいの社員がとどまるということである。

監視体制関係

(問) 住民の中に不安や反対の声はなかったか。不安や反対の声に対しては、どのように対処したか。

(答) 不安や反対は、当時もあったし、いまも一部にある。町議会でも、ほとん

ど毎回、原発関係の一般質問がある。問題によっては、言いにくいことを言ってくれるので、ありがたい。町議会の革新勢力は、社会3、共産1。

(問) 事前の諸調査はどのように行なわれたか。

(答) 環境放射能調査等が行なわれた。

(問) 監視体制はどういう形になっているか。

(答) 敦賀と同じ。

(問) モニタリングの結果をどういう方法で住民に知らせるか。

(答) きまっていないが、町営の有線放送(95パーセントの世帯が加入)か、広報紙上等で知らせることになろう。

(問) 役場内の原発担当課

(答) 広報課

産業振興関係

(問) 地元既存産業への影響(賃金、雇用、受注)

(答) 賃金がつり上がり、労務者が集まらず、土木業者は困っている。災害復旧工事も遅れがち。受注は、この小さな町にはあまり関係がない。

(問) 関連産業誘致の見通し

(答) いまのところ、ない。

(問) 温排水の活用策

(答) 敦賀の水産試験場等で研究される。

(問) 漁業補償

(答) 補償額1億1,200万円(漁業権補償7,200万円、真珠養殖事業補償4,000万円)配分は、個人配分と組合蓄積の2つの形をとっている。組合には部落全戸が入っている。

(問) 地域の開発発展のビジョン

(答) 観光開発、農業基盤整備、養殖漁業等。

丹生漁業

説明者 丹生部落区長

漁協職員

(問) 丹生部落の概況

(答) 戸数68、半農半漁、全戸が漁協に加入、男は漁業に、女は農業に、漁業は湾外が主、湾内はナマコ、はまち、真珠養殖等があるが、水揚げはそう多くない。真珠養殖は三重県の業者が来てやっている。

(問) 海水に放射能がまじることを心配しなかったか。

(答) はじめは心配したが、説明を聞いて納得した。

(問) 補償の対象になる漁獲高のつかみ方。

(答) 組合は販売事業をやっていないので、わからない。県の水産課が個々に申し出をさせて調査した。水産課に一任したようなかっただ。水産課が会社と交渉した。最終的には、県の立ち会いのもとに、組合の代表者と会社の代表者が話し合い、調印した。漁運はタッチしなかった。

(問) 配分はどのようにやったか。

(答) 蓄積分を別にして、あとは全戸に半等割で分けた。

(問) 水産物の市場価格の下部を心配していないか。

(答) 特に心配していない、問題が起きたら、その時点で話し合うことになっている。

(問) 大敷網は補償の対象に入っているか。

(答) 入っていない。排水口から1, 700メートルぐらい離れている。

(問) 会社に部落からの雇用があるか。

(答) 若い人が7~8人雇用されている。

美浜発電所

説明案内者 村松次長

PRセンターにおいて、次のような点について概要の説明があった。

○美浜発電所の概要

炉型式 加圧水型

出力 1号機34万キロワット 2号機50万キロワット等

○加圧水型と、ふつとう水型

○PRセンターの外来客

開館後2年間で36万人、1日平均500人

○放射能廃棄物

毎日、ドラム罐に1本ぐらい

貯蔵倉庫は10年分ぐらい貯蔵できる

○炉心から近接部落までの距離

丹生部落まで直線で約1キロ

○排水の流速

排水口を出るときには秒速30センチに落とす

説明のあとで、発電所の施設を見学した。 以上